

北海道

国際理解教育  
研究協議会

# 会報

第24号

会長 大泉 弘  
事務局長 石田省子  
発行 平成5年  
1月29日

## 江差大会に参加して

札幌市立明園中学校 大竹伸一

多くの北海道史の舞台となった江差町で開催された、第13回北海道国際理解教育研究大会に参加する機会に恵まれました。さすが、町ぐるみで国際理解に取り組まれているだけに会場内には熱気がみなぎり、NHKの柏倉 康夫氏の講演も大会に花を添えていました。

私は、中学校3学年の理科の授業を見せていただきました。授業は「地震の災害を身近にとらえる」ということで、江差町の過去の地震災害を通して「地震」を学習していく動機づけをねらったものでした。教室の窓からも地域の特徴的地形が一望の見渡せ、バスなどの交通機関を利用しなければあのような地形を目の前に見ることのできない地域の私にとっては、「地の利」をうらやましく思いながら参観をはじめました。

授業は、よく工夫されていて感心しました。その一つが歴史的に見た江差町での地震被害の調査報告です。子どもたちは「日本海中部地震」時の江差町でのようすを自分の幼稚園時代の体験や両親、祖父母への聞き取りをしたり、図書館の資料（新北海道史など）を調べたものを各班が活発に報告し授業を盛り上げていました。

ただ、帰路の車中で大会の余韻にひたって思いついたことがあります。それは、「地震」を通して国際理解に迫る動機づけをねらうとすれば、授業の中で地震が起こらない地域をクローズアップする方法もあると思うのです。地震の起こらない地域の人々の地震についての理解度や生活のようすを教師が直接取材、それが難しければ間接取材をするなどして子どもたちに紹介すると、両者の思考の違いを認識させることができると思うのです。それにより、日本人の価値観や思考等と大きく違いを持つ人々が地球上に同居しているという認識を強めるはたらきかけの一つになると思うのですがいかがでしょうか。

お蔭さまで有意義な時間を過ごすことができました。最後になりましたが、江差町ならびに檜山のみなさまのご苦勞に感謝とお礼を申し上げます。



# 9 3 釧路大会の成功を期して

釧路地方国際理解教育研究会  
会長 藤原文夫  
(釧路市立北中学校長)

当会はおよそ、①総会 ②視察報告会 ③講演会 ④授業公開を含む研究会 ⑤全道、全国大会への参加 ⑥会報、研究紀要の発行などの事業を比較的精力のかつ誠実にこなしている。会員数150名余り。海外経験のない会員もかなりの数に上っているのが自慢?

今年度は当会発足10周年を記念して盛大に祝賀会を開かせていただき、歴代の会長、事務局長に感謝状を贈呈することができた。

次年度、当市で第14回北海道国際理解教育研究大会が開催されるので、今年はその準備年として、

1. 全国大会3名、全道大会10名の参加
2. プレ大会の開催  
小学校2、中学校2、高校1の授業公開を含む研究会(12月11日・釧路市立東中学校で)  
当市としては3校種、5学級という数の公開は初めて。
3. 国際理解&国際協力展協力  
45億5千万という巨費を投じて、当市に生涯学習センターがこのほど完成したのであるが、それを記念して市や教育委員会の主催で国際理解&国際協力展が開催される。これは、展示、料理、国際電話、講演会、外国の遊びコーナーなどなどであるが、当会もこれに積極的に協力する。  
(来年の大会もここで)
4. 「わたしの国、わたしの見た日本」開催  
韓国、マレーシア、ベトナム、中華人民共和国からの学生や日本人学校からの帰国報告を聞く。  
来年2月第2土曜日に企画。これまでの参加はほぼ会員のみだったのを、中学生、高校生、大学生、一般まで拡大する。

\*\*\*\*\*

次年度へ向けての紀要づくりも急ピッチで進んでいる。教科、領域のねらいと合目的な国際理解乃至は国際教育の多様で斬新な展開、国際性、環境意識の発達課題などが目下われわれの最大の関心事である。

\*\*\*\*\*

来年6月に行われるラムサール条約締約国会議は、当市での初の国際会議である。約100カ国、1000人の参加が見込まれているが、この大会に協賛する趣旨からもなんとかすばらしい大会をと念じている。ご指導、ご鞭撻の程を。

# 網走管内国際理解教育研究会 今年度の活動

網走管内国際理解教育研究会  
事務局長 関 全  
(訓子府町立訓子府中学校教頭)

1. 代表者 豊嶋隆範
2. 事務局長 関 全
3. 会員数 107名
4. 研究主題 国際社会に生きる日本人の育成  
～学校や地域社会における国際理解教育をどう進めるか～
5. 平成4年度活動状況及び内容
  - (1) 総会及び平成4年度海外日本人学校派遣教員激励会
    - ・平成3年度活動内容の総括
    - ・平成4年度活動計画の決定
    - ・海外日本人学校派遣教員激励会 平野 毅 (サウジアラビャジェット)
    - ・会員親睦交流会
  - (2) 国際理解教育基底カリキュラムの編成
    - ・編集委員及び資料提供協力者 39人
    - ・平成4年度網走地方教育研修センター講座に使用
  - (3) 夏期会員学習会及び海外日本人学校派遣希望教員学習会
    - ・会員学習会 国際理解教育基底カリキュラム実践交流 出席者32人
    - ・派遣希望教員学習会 講師の講話中心に学習会 出席者13人
  - (4) 第5回 網走管内国際理解教育研究大会北見大会
    - ・平成4年11月13日(金) 北見市立上常呂中学校  
参加人数86人(北見市初任者研修として18人を含む)
    - ・公開授業 (選択理科) 小泉吉民教諭 (集会活動) 天野 弘教諭
    - ・研究協議 ① 国際理解教育の授業実践に向けて 豊嶋 稔研修部長  
② 基底カリキュラム授業実践報告 6名の報告
    - ・全体会 演題 「今、望ましい国際理解の資質」  
講師 デボラ V ホール さん (東藻琴村AET)  
司会 豊嶋隆範会長
  - (5) 第15回全道国際理解教育研究会檜山大会へ会員派遣4人
  - (6) 会報発行
  - (7) 会員への働きかけと組織拡大 (平成4年度新規入会者数 7人)
  - (8) 総会及び平成5年度海外日本人学校派遣教員激励会

## 第5回 網走管内国際理解教育研究大会

大会主題 「国際社会に生きる日本人の育成」  
～学校や地域社会における国際理解教育をどう進めるか～

目的 社会の進展により、国際的な相互依存関係が深まり、物や情報の交流に続いて人の交流も盛んになってきました。こうした中において、国際社会に生きる日本人の育成を目指して、その基礎・基本を体得させることと共に、人間性豊かで国際社会において信頼と尊敬の得られる日本人を育てることは、教育に課せられた重要な課題となっております。

私達は、第1回網走管内国際理解教育研究大会紋別大会から、第2～4回網走大会へと成果の累積を図ってまいりました。その間、第11回北海道国際理解研究大会網走大会を開催し、全道各地より450余名をお迎えし、研究協議を通して、多くの成果と実践的研究の方向性について示唆をいただきました。また、「いつでも、だれでも、どこでも」行われる国際理解教育を目指して「国際理解教育基底カリキュラム」を編纂し、会員は元より網走管内の全小中学校に配布し、実践いただいているところであります。

本研究大会は、この成果と方向性を基に、国際理解教育の基本理念にたちかえって、「国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度を育成」し、国際社会に生きる日本人としての資質を醸成することを願い、本研究大会を開催するものです。

### 感想

#### 公開授業

上常呂中学校の小泉吉民先生には、選択教科(理科)の公開授業をお願いしました。公開授業を通して、次の2点をねらいとしていただいていると思われま

- ① 国際理解教育は、何か新しいものを取り入れるということではなく、まず、子どもたちの身近な課題から出発して、世界の自然へ眼を向けさせ、身近な自然とのかかわりを問い直すことであろう。
- ② 選択教科(理科)の指導に当たっては、生徒の興味・関心のある内容を選択し、探究する学習活動を行う機会を与え、個性や創造性の伸長を図るとともに、自然の事物・現象をより一層多角的・継続的に調べる能力や態度を養う。これら2点のねらいは、指導者の綿密な指導計画と生徒諸君の意欲的な学習によって達成されたように思います。

#### 研究協議

研究協議の中で、基底カリキュラムの授業実践の報告が6人の会員からありました。管内各地の学校において、実践・検証が着々と進んでいる様子が交流されたことは、心強いことでもあります。各学校においては、学校の教育目標の中に国際理解教育の目標や内容が生かされ、国際理解教育の全体計画や指導計画を作成し、実践がなされることを願っております。

## 全体会

AETのデボラ・V・ホールさんをお招きして、「今、望ましい国際理解の資質」と題して講演をしていただきました。世界に大きく目を開くために、大変有意義なお話でした。

## 大会を終えて

学校における国際理解教育は、今日の学校における大きな課題のひとつですが、今回の大会でお世話になった上常呂中学校では、全教育活動を通して、生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、国際人としての資質の育成に努力されていることに心から敬意を表したいと思います。



# 渡島国際理解教育研究会の歩みから

渡島国際理解教育研究会会長 森山悦雄  
(戸井町立潮光中学校長)

平成4年度渡島管内の研究会が10月13日、戸井町立潮光中学校で開催された。変動する世界は、国と国の壁が除かれ、ボーダレス時代とも言われる時代を迎えている。自分や自国のことのみ狭い視野では通せず、今後益々進展が予想される国際化に対応して、次代に生きる日本人の育成から学校教育を進めなければならない。教育課程審議会の答申において教育課程の基準のねらいの一つに「国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること」と国際理解教育の重要性が強調されている。

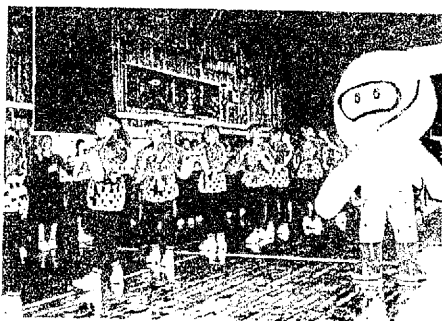
本校(会場校)では、国際理解教育の推進に当たって、次のことをおさえた。

- ① 国際理解とは、単に他国の人々や文化や歴史などの知識理解ではない。
- ② 国と国、地域などの文化の比較を通して相互理解をはかるものである。
- ③ 自国、郷土の文化、伝統を見直し、掘り起こしを図る。

このことから、国際理解の芽を育てる交流会の開催を通して、体験不足の生徒自らの手で会を企画運営させ、決断と組織化、責任、実行力を培うことをねらった。この「国際交流の体験を通して、郷土の誇りある文化や歴史、産業などに目を向けさせ、地域の良さに気づかせ、文化伝統を受け継ぎ、発展させようとする意識や態度を育てながら、「確かな国際理解」を進め、教育活動の一つとおさえた。

以下実践の一部を紹介したい。







# 国際理解教育の芽を育てる集会活動の指導計画

日時 平成4年10月13日(火)  
 会場 戸井町立潮光中学校体育館  
 生徒 男子48名 女子51名 計99名  
 指導者 朝倉 誠 藤田 雅美 野村 睦

## 1:ねらい

- (1)他国の文化や歴史等の知識理解ばかりでなく、人と人との交流、人間的触れ合いの中から生徒の一人ひとりの豊かな心情を育成する。
- (2)異文化に直接触れることにより、自国と他国の文化を比較検討させ互いに理解を深め、国際的な視野に立って激動する世界を見つめる態度を育成する。
- (3)地域や郷土の歴史・文化・芸能を見直すと共に、自国の歴史・文化を尊重する態度を育成する。
- (4)世界の動きに目を向け、世界的視野に立って物事を判断できる「芽」を育成する。
- (5)生徒会主催の集会活動であることを企画の段階から意識させ、集会活動を成功させようとする態度を育成する。

## 2:設定の理由

本校の地域の実態は、函館市に隣接してはいるが、国際的な文化や行事、外国人との交流など極めて少なく、物の見方、考え方等に広がりがない。従って、変化の激しい国際社会に生きる人間として、正しい国際理解教育を深めることは大切なことである。本校生徒は、明るく、素直で、協調性がある。反面、積極的に物事に取り組む姿勢、自主性・社会性に欠ける面が見られる。そこで、国際理解教育の芽を育てる集会活動を通して、生徒自らの手で集会活動を企画・運営させ、決断力・判断力・責任感を養うことをねらう。また、集会活動を通じて、地域の誇りある文化・芸能や歴史、産業に目を向けさせ、その良さに気づかせるとともに、文化と歴史を承する自覚をもたせたい。

## 3:指導計画

	月日	学 級 活 動	生 徒 会 活 動	全 校 活 動
第 一 次 国 際 交 流	9/10		第1次国際交流活動準備(集会委員会) -国旗製作 -体育館飾り付け計画作成	
	9/11	第1次国際交流活動原案作成(3年生)	第1次国際交流活動原案検討(集会委員会) -役割分担 -学級連絡	
	9/14		第1次国際理解教育の芽を育てる」ポスター展(学習常任委員会)	
	9/16	第1次国際交流活動について(各学級)		
	9/18		第1次国際交流会会場装飾完了	第1次国際交流活動準備
	9/19			第1次国際交流活動
	9/21	第1次国際交流活動反省と展望	第1次国際交流活動反省と展望 -第2次国際交流活動に向けて	

	月日	学 級 活 動	生 徒 会 活 動	全 校 活 動
第 二 次 国 際 交 流	9/26	第2次国際交流会原案討議	第2次国際交流準備(集会委員会)	全校合唱 ポスター展表彰
	10/ 1	ソング発表について(1年生) トーパス音頭(2年生)	プログラム作成 留学生招待状作成・発送 係分担	
	10/ 5	グループ交流について(3年生) 交流会準備活動 ソング発表 トーパス音頭 グループ交流の流し方	会場装飾プラン作成、準備 各学級への伝達 交流会進行方法の検討	各グループ話し合い
	10/ 6			全校合唱
	10/ 7	交流会準備活動 ソング発表方法 トーパス音頭発表方法 グループ交流の流し方		各グループ話し合い
	10/ 8		第2次国際交流活動の全体の流れ検討	第2次国際交流活動準備活動 各グループ話し合い
	10/ 9			全校合唱
	10/12		第2次国際交流会打ち合わせ 会場装飾完了	会場準備
	10/13			第2次国際交流会実施
	10/14	第2次国際交流活動反省(各学級)		



# 札幌国際理解教育研究会

## 研究内容と研究会の様子・実践例

札幌国際理解教育研究会

研究部長 真木孝輝

1. 研究主題 「国際社会に生きる日本人の育成をめざして」  
～地域に根ざした国際理解教育のあり方～
2. 第8回大会でめざすもの

国際理解教育は、全ての教師がその地域にある素材を生かして、いつでも行える学校教育を通して子どもたちが、国・肌・文化・習慣・言葉等の壁を乗り越えて、同じ人間として尊重し、相互協力しあって生きていけるように育てることにあると考える。

その国際理解教育の素地として、まず押さえなくてはいけない事は、次の点であろう。

### (小学校段階)

考え方、能力、立場等個性が異なる集団の基礎単位である学級において、お互いの立場の違いを認めあい、尊敬しあい、相互に協力しあい、励ましあう経験を深め、支持的な学級風土を育成することで、児童一人ひとりに、成長に応じた相手を思いやる豊かな心情を全教育活動を通して育成していく。また、できるだけ地域の素材を生かした国際理解の授業を開発し、実践を重ねていく。

### (中学校・高校段階)

この小学校の素地の上に、様々な教育活動と国際交流体験を積み重ねて国際理解を広げ深めていく。

第8回大会は、そのために、「身近で、誰でも、いつでも、どこでも取り組める地域に根ざした国際理解教育はどう実践化していけばよいか」を下記の公開授業と研究発表で探ろうとしたのである。

### (公開授業)

- 5年 社会科 「地球の環境を考える」 ※海外青年協力隊の人から話を聞く
- 2年 学級活動 「朝鮮のお友達と楽しく遊ぼう」  
※北海道朝鮮初中高級学校との交流
- 6年 社会科 「結びあう日本と世界」  
※留学生との交流・現地の料理の試食

(研究発表) ——「札幌市旭丘高等学校における国際理解教育の取り組み」



# INDONESIA

Bak Island, just off the coast of Irian Jaya (New Guinea)—a lively group of elders perform a welcome dance

## 言葉交り新年 (Selamat Tahun Baru!)

早いもので、私たちのインドネシア生活も2回目の越年を迎えました。任期3年のうち、もう折り返し点を過ぎ、まだまだやり残している研究や教育活動が多く、3年目の総括期に向けて気を引き締めている今日この頃であります。

日本人学校では、昨年10月末、担任をしている2学年のバリ島への三泊四日の修学旅行がありました。往復は航空機、全泊ホテル、クルーザーのチャーター、そして体験学習として、有名なバリダンスやガムランの演奏など、まさに外国ならではの貴重な体験を生徒に与えられたのではないかと思います。

私個人の研究としては、ジャバ島の和フグル遺跡についてのレポートが日本人学校で使う教科書になりました。今後、更に任国や近隣諸国(シボルガ、マラウ、オストリア、ニューグランド)へのフィールドワークを重ねる所存です。

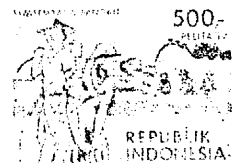
これまで幸いなことに、家族一同、健康面でも日常生活面でも大過なく過ごさせて頂いております。これも日本国内でお世話になった皆様、そして2人のメイトさん運転手おを初めとするインドネシアの人々、さらに学校でのよき同僚や生徒のお陰と感謝している次第です。

今後も、健康に留意し残された派遣期間を有意義におくる決意を述べさせて頂き、近況報告並びに新年のご挨拶にかえさせて頂きます。

常夏のオカサ

平成5年 睦月 佐々木俊朗

TO JAPAN  
AIR MAIL



## 海外からの便り

ジャルタの佐々木先生、ペルーの笹木先生からお便りをいただきましたのでご紹介します

FROM  
TOSHIRO SASAKI JL. Taman Marga Satwa 11  
MAKIKO SASAKI Pasar Minggu  
YUTO SASAKI (2名) JAKARTA Selatan INDONESIA

# アンデス通信

ペルー共和国  
リマ日本人学校  
第三木曜三  
(毎月第立を講小学校)  
1992年10月25日  
NO. 22

## テロの背景

どうしてこのペルーでテロ活動が日常的に行なわれてきたのか。ペルーの地方都市のひとつアヤクーチョという所の人々の生活は、貧困のどん底にあった。続く天候不順で農作物がとれない。しかし政府は何もしない。その頃の政治は首都リマ中心で、地方など目になかったという悪政だったそうだ。そのアヤクーチョで生まれ育ったのがテロのリーダー、グスマンであった。グスマンは共産主義に傾倒し、自分たちの生活を豊かにしていくのは中国のような共産国であり、そのために政府との対決すること、その手段としてテロ活動を選んだのだ。ペルーのテロは、過去の悪政のツケなのだ。

## 発達しすぎた「ありがとう」

若者といえは、どこの国でも礼儀知らずの世間知らず・・・、という具合に大人たちは思うものです。このペルーでも、最近の若者の宗教心の無さや娯楽優先主義を、大人たちは冷やかな目でみているようです。しかし、私ほどんな若者でも「グラシアス」(ありがとう)をはききり言うことに感心しています。日本ではどうでしょうか。頭をほんのわずかに下げるとか、聞こえないような声で「はい」とか、反応がないとか、借けない現状ではないでしょうか。日本人の場合、若者特有の「照れ」といふのがありますが、もう一つ、日本語における感謝の言葉が発達しすぎたということも考えられないでしょうか。「ありがとうございます」「すみません」「恐縮です」「ごちそうさまです」「おそれいります」「それじゃ遠慮なく」・・・とっさに相手と状況を判断して適切な感謝の意を述べることは、日本語のすばらしさでもあります。やはりむずかしいものです。そんな感謝の言葉のすかしさが、日本の若者を無礼にしているのかもしれない。(感謝の気持ちはあるのだけれど、表現が苦手になって)その点、どんな相手でも状況でも「グラシアス」ですませることが出来るのは、無礼な若者を増やさないことに役立つと言えます。「グラシアス」で何でもすませるのは、何かうすべらな感じもありますが、はつきりした声で「ありがとう」を言われることも言うことも気持ちのいいものです。

## 味の素

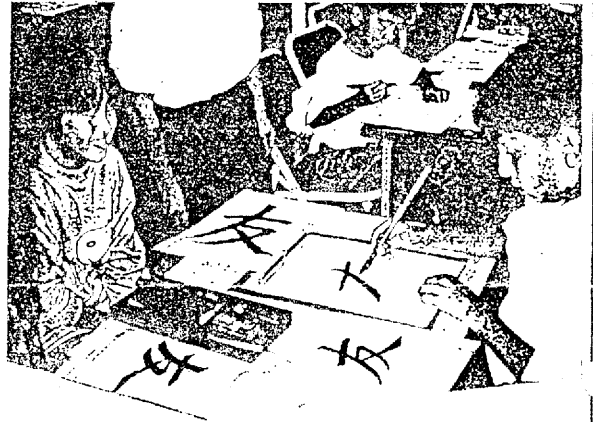
日本の家庭ではあまり使わなくなった味の素。ここペルーでは依然として人気が高い調味料です。どんな料理にもたくさん入れます。味の素の工場もペルーにあります。(もちろん日本企業) その人の話では、ペルー人と日本人は世界の中でも味覚にうるさい国民だそうです。

近所づきあいも大変です。今年になってから、近所の子どもの誕生日に呼ばれることが増え、プレゼント選びもなかなか苦労します。こちらの誕生日はすごいです。家の飾りつけ、ケーキ、さらには子どもたちを楽しませますピエロを雇ったりもします。鏡類縁者はだいたい勢揃いします。誕生日を本当に大切にしていることがわかります。

日本のように娯楽が発達していることもあり、誕生日のパार्टイは一つの楽しみにもなっているようです。

## 誕生日

\*交流活動=ペルーの子どもと書道を



## サッカー

南米のサッカー熱は有名です。近所の町内会の運動会のようなものがあって、家族で参加しました。道路を利用して、徒競走あり自転車競走あり、公園ではバレーボールとサッカーを楽しみました。サッカーが始まって、驚きました。もう皆一流選手のようなボールさばきです。私などボールにさわることでもできませんでした。なんと得点王は5も才の店屋のおじさん。

子どものときから遊びはサッカー。ちょっとした広場があればサッカー。昼休み、工事のおじさんもサッカー。市場のおじさんもサッカー。道路はすぐサッカーコートに早がわり。



\*文化祭=民族衣装でスペイン語発表

# アンデス通信

ペルー共和国  
リマ日本人学校  
笹木卓三  
(香広市立花園小学校)  
1992年11月27日  
NO. 23

## 92選挙でペルーは変わるか

4月5日のフジモリ大統領による議会と司法の停止から7か月。フジモリ氏の命運をかけた議会選挙が11月22日に行なわれた。選挙48時間前には、アルコールの販売までも禁止された。また、棄権すると罰金もかせられるというすごい選挙であった。酒についても罰金についてもペルーでは昔からの慣習だそうだ。

フジモリ氏を支持する政党がこの選挙で過半数をとった。これで、フジモリ氏の政治はうんとやりやすくなったといえる。

大統領が日系人。最大の政党の党首も日系人（ハイメ＝ヨシヤマ氏）である。私までも身がひきまる思いである。とにかく新しいペルーが動きだそうとしている。

## Gパン

### トピックス

\*夏到来!

オリオン座が天頂で輝いています。

\*少なかった外国人観光客

少しずつ増えてきました。

\*生活科!

校外に出ることがむずかしい国ではどうしたら良いのか???

\*教員の家、続けてドロボウにやられる。日本語ワープロを盗まれたが、はたしてドロボウはそれをどうするのだろうか??

日本からもってきたGパン。通算すると5年もはいている。色もわるくなったので、そろそろはくのをやめようと思っていても、破れないかぎりにはこうと思いついてしまう。

しかし、どう見てもキタナイ。でも破れない。変だな? そう、床にすわる生活をしないからだということ気が付いた。これほど汚れてきたら日本ならとうに膝のところが破れているのだ。

「そんなキタナイGパン、まだはくの?」と妻に責められても、破れるまでは・・・と思っていたが、日本のすわる生活はGパンをほどこいよこれ具合で、あきらめるのにはずいぶん役立っていたのだなあ、なんて感心している私である。

# 日本語弁論大会

ペルーには十万人近くもの日系人がいます。世代が進み、ほとんど日本語が話せない人の方がはるかに多くなっています。しかし、日系人の間では日本語を残し、若い世代に伝える活動がさかんに行なわれているのも事実です。「日本語弁論大会」もその活動の一つで、各地区の予選を勝ち抜いて来た人の全国大会まであります。

我々と同じ顔をした人が、日本語を外国語として学習し、それを発表するのですから何か変な感じがします。しかし、会場は熱気に包まれていました。

彼らが、日本や日本人をどう見ているかということもよくわかりました。日本人は時間的に正確、親切、道徳心がある。街は美しく整備されている。などと日本を見習いたいという考えが多いのです。

弁論大会を聞いていて、改めて日本語のむずかしさ、日本の良さを認識しました。

## 日本へ一時帰国

今年度からペルーに勤務する私たちに対して、一時帰国が許可されました。テロやコレラさわぎなどがその理由でしょうが、一時的に日本へ帰って心身を休めてくださいというのがこの一時帰国の制度です。3年は日本に帰れないと思って来たのですが、この12月には日本に一時帰国することになりました。

### 日本に行ったら

- ①水道の水をそのままガブガブ飲みたい。
  - ②夜の街をのんびり散歩してみたい。
  - ③日本語だけで買物したい。
  - ④首までつかる風呂にはいりたい。
- 食物のことが出できません。この国の食料事情がいいからですね。
- とにかく、12月22日に帯広に着きます。2週間ほど日本にいます。

\*今年度の海外子女文芸作品  
コンテスト 詩の部門で  
我がクラブの子どもの詩

### カラオケ

鈴木 健一郎

カラオケを歌ったぞ  
「津軽海峡冬景色」  
なつかしい日本の景色を見た  
リフは、雪がふらないもんな  
きびしい冬景色なんてない  
ああ なつかしい冬景色  
帰りたいな 日本  
ほくは思いをこめて歌った  
日本のみんなは、どうしているかな  
カラオケを歌ったぞ  
谷村新吾の「すばる」だ  
前進する勇気のある男の歌だ  
ペルーは、たいへんだもんない  
日本のように平和じゃない  
ああ きびしいペルー生活  
がんばろう ペルーで  
ほくは思いをこめて歌った  
あと二年 ペルーでがんばるぞ

元気で仕事してよー

一時帰国の際には

元気な顔で見せ歩くつもりです

八日(土) 八日(土)

ペルーからペルーへ